

令和7年度

北小松島小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 基礎的・基本的な学習内容の定着を確実に図る授業の実践
- 主体的に学習に取り組み、認め合い、話し合い、学び合う授業の実践

校長

湯浅 美代

学力向上推進員

学力向上推進員：赤川 綾香
教務主任：斎藤 祥子
研修主任：生田 柊人
生徒指導主任：阿部 さおり

【各校の取組状況の把握について】

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

管理職や教員間での授業参観や研修、報告など、様々な機会を捉え取組状況の把握を行う。

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○漢字の読み書きや算数の計算など、課題に対して真面目に取り組むことができ、一定の定着がみられる。 ●語彙が少なく書くことが苦手で、算数の計算や立式の意味などの理解が不十分な児童がいる。	・語彙が増え、正確に読み書きができることで、個人の基礎学力を身に付ける基盤が整っている。 ・基礎的・基本的な知識・技能を他教科の学習や生活の場面で活用することができる。	・週3回のモジュールの内、1回を漢字能力の向上、語彙力の増強を図る問題に取り組む時間として確保する。 ・生活科・総合的な学習の時間において教科横断的な学習や他教科の学びを深める活動を実施する。			

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○自分の考えを発表したり、友達の意見を聞いたりする活動を好み、意欲的に取り組める児童が多い。 ●自分の思いや考えをよりよく相手に伝えたり、説明したりするなど表現の力に課題がみられる。 受け身になり、新しい考えを作り出す力に課題がある。	・問題解決に向けて、見通しを持って取り組み、自分の考えを表現することができる。 ・自分の考えと相手の考えを比較するなど適切な言語活動により、よりよい考えを見つけ出すことができる。	・授業のめあてや問いを明確に示し、問題解決のために、個人・ペア・グループ学習などの学習形態を工夫する。 ・児童が効果的に学習や発表ができるよう、タブレット端末やICT機器を使って考えを共有する場面を充実する。			

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○各授業へ真面目に取り組むことができる。家庭学習に対しても真面目に取り組む児童が多い。 ●決められた課題には真面目に取り組むことができるが、自分で課題を見つけ、主体的に取り組むことができる児童が少ない。	・学習内容から自ら疑問や課題に対しての探求心をもつことができる。 ・日々の授業や自主学習を通して、達成感や学ぶ喜びを感じることができる。	・児童の興味関心・疑問を尊重し、学習のめあての設定や課題解決に向けての方法を掲示する。 ・個に応じたアドバイスをを行い、ほめ方を工夫することにより、自己肯定感を高める。			